

〈URL〉 <http://www.teisotoyoka.com> 〈E-mail〉 info@teisotoyoka.com

思い出のダイビング

一年間で一番気温が下がる季節です。この時期は、私たちの対象とする生き物も活動が一番少なくなる時期となります。ですから、関連の学会やフォーラム、資格更新講習などが集中する時期でもあります。今回は、2月15・16日に金沢で開催されたペストコントロールフォーラムに参加してきましたので、それについてご紹介します。

会場となった金沢は、今冬一番の寒気の到来で、北陸に大雪が降りました。タクシーの運転手さんに聞くと昭和38昭和56年の大雪を超える積雪になったそうで、6日間営業ができなかったとのこと。当日展示を予定していた賛助会員さんも、荷物を送るのに運送会社に断られ、前週に高速道路の通行禁止の合間を縫って持参したそうです。私も前日まで、北陸本線が止まっていたので、東京経由の移動を考えていた次第です。幸いにも移動日は「シラサギ」が動いてくれたので、予定通り参加することができました。大会を主催された方々は、開催を含めハラハラしたことと思います。

このフォーラムは、行政機関からの参加が多いこともあり、2日目のシンポジウムは「環境衛生監視員業務の現状と課題ー衛生動物(ノロ、レジオネラを含む)関連業務を中心に」というテーマでした。日帰り入浴施設で発生したレジオネラ症事例や熊本の震災対応などが報告されました。

初日は、ネットイトコジラミ・マダニ・ヒアリなどの講演がありましたが、特別講演だった国立大学法人金沢大学理工研究域自然システム学系生態学研究室の都野展子先生「蚊とともに生きた20年」は、まさに再興感染症の発生を考えさせられるものであった。ヒトの起こす環境変化が生物種や生態的变化を誘発し被害を深刻化させたり、害虫を創った場合もあるとのことでしたが、経済のグローバル化で狭くなり、温暖化の影響を受ける世界では「蚊」が媒介する感染症については注視しておかなければいけないという警告であったと思いました。

平成26年8月のデング熱の国内感染事例を東京都健康安全研究センター環境衛生研究科の井口智義先生の発表では、雨水マスがヒトスジシマカの発生源になっていること。その中に羽化阻害剤のピリプロキシフェンを散布すると、採取した水からは目標有効濃度を満たさないが、底泥中には高濃度で検出されたこと。その底泥を持つ帰り実験すると、ほとんどの個体が羽化しなかった。等が報告されました。人が自ら提供した環境に発生源を作ってしまう、その対策に苦慮しなければいけない。なんとも複雑な思いでした。

弊社としましては、今年行われる(公社)愛知県ペストコントロール協会が主催し行う公共雨水マス中のボウフラの発生調査に参加してデータ収集にあたりたいと考えています。地味な仕事ですが、有事の際の貴重な資料作成ができればと思います。

今月のオススメ STRONTEC：コンパクトで設置場所を選ばない室内用の飛翔昆虫防除器です



(交換用カートリッジ)

微粒子状の薬剤噴霧で室内の飛翔昆虫の防除を自動で行なう防除機器です。ピレスロイド系の薬剤によって飛翔昆虫に対して即効性がありつつも薬剤の残留は少なく、煙も出ないのでオフィスや飲食店の客席にも安心してご使用いただけます。単三乾電池2本の電池駆動で最長3ヶ月使用でき、高さ23.5cm×奥行4.5cm×幅6cmとテレビのリモコンサイズの本体は電池と薬剤を含めても230gと軽く、両面テープでも壁面に十分に設置が可能です。

自然の復元力 Vol. 86

私たちの郷土日本は身近に山々や川が眺望することができ、四季折々にいろいろな野鳥が姿をみることができます。春から夏にかけてツバメをはじめオオリリ、キビタキなどが姿をみせます。これらの野鳥は夏に日本で繁殖し、秋になると南の空へ飛んで行ってしまいます。従って、これらの鳥は、日本の冬の時期に南で過ごすことから、夏鳥と呼ばれている渡り鳥で、日本では21科70種以上の野鳥が数えられています。一方、夏鳥と入れ替わるようにして飛来する渡り鳥がいます。これらはシベリア方面で繁殖するジョウビタキやカモ類をはじめ、ツグミ、カシラダカなどの渡り鳥がリストされます。これらは冬鳥とばれ15科75種以上がリストされています。また、シギやチドリのようなシベリア地方で繁殖し、冬を東南アジアやオーストラリア方面でし、日本には春と秋に立ち寄る野鳥もいて、それらを旅鳥と呼んでいます。これらは7科30種以上数えられています。さらにカラス、スズメ、キジバトなどのように1年中同じ地域に生息するものもいて、それらを留鳥と呼び、ウグイス、アカハラ、ヒヨドリなどのように、距離は大きく離れてはいないが繁殖地と越冬地を異にする鳥類もいて、それらを漂鳥と呼んでいます。日本では約550種の漂鳥がいるとされています。渡り鳥とは、毎年遠く離れた繁殖地と越冬地を正確に往復する夏鳥、冬鳥、旅鳥などと鳥たちを読んでいます。また、渡りには定期的な渡りと不定期な渡りがあり、後者ではレンジャク、マヒワ、イスカなどが知られていて、異常な乾燥や低温、その他気象の変化などによって一時的に移動することが知られています。

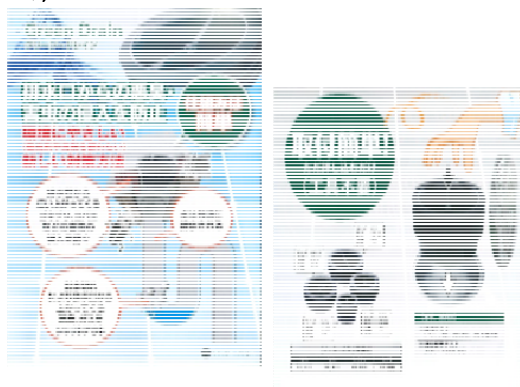
以下に渡り鳥のヒトへの関与について、2つの事例を示しますが、その考察には渡りの詳細なルート解明及び渡り行動の理由解明が必要であると思います。渡り鳥の繁殖地や越冬地および渡りのルート解明については、鳥の足に標識を付けて放鳥、そして捕獲して分析をするという地道な調査研究が行われています。次第に渡りのルートが明らかになっていくものと思われます、

<例1>1999年8月にUSAのニューヨーク市に初めて出現した西ナイル熱は2002年には37州に流行が拡大しました。そこには2つの要因があるとおもわれます。この疾病は鳥と蚊で生活環を持っていること、渡りによって鳥類の西ナイルウィルスの保菌個体群が急速に拡大したからと思われる

<例2>2002年からWHOに報告されるようになりました鳥インフルエンザ(H5N1)は、当初人への感染はないとの見方でしたが、1997年香港におけるH5N1の鳥との間での流行時に6名の死亡を含む18名の患者の発生が確認され、偶発的な発生とはいえ、鳥から一重の直接感染がありうることが明らかにされました。2003年勧告を皮切りにアジア覚国で家禽類の間で集団発生がおきました。毎年冬になると養鶏場などで、鳥インフルエンザの感染がニュースになります。感染経路は渡りのカモ類が疑われています。(Sin)

参考図書: 中村司著「渡り鳥の世界」山梨日々新聞社、2012

チョウバエ対策グッズ!!! Green Drain



グリーンドレインを、排水溝の径に合わせて密着させ設置すると、水は流れますが、配管の中を這い上がってくるチョウバエ等の害虫や悪臭を阻止することを目的とした商品です。殺虫剤を使用しませんので、環境にやさしいIPMの理念に則った物理的対策が可能です。配管のつなぎ目に設置できるなど、容易に取り付けることが可能で、長期間の効果が期待できます。お問い合わせはお気軽に。お待ちしております。



Eco Friendly Pest Management
自然にやさしい総合的有害生物管理
株式会社テイソートヨカ

IPM・コンサルティング・異物同定分析
有害生物(ネズミ、ゴキブリ等)管理・ノラバト飛来防止施工

<URL> <http://www.teisotoyoka.com> <E-mail> info-teiso@teisotoyoka.com

| | | | | |
|------------|-----------|---------------------|------------------|------------------|
| 本社・名古屋東営業所 | 〒468-0045 | 名古屋市天白区野並2丁目334番地の2 | TEL 052-891-8311 | FAX 052-891-8440 |
| 名古屋西営業所 | 〒453-0818 | 名古屋市中村区千成通4丁目18番地 | TEL 052-482-6591 | FAX 052-482-8778 |
| 三重営業所 | 〒510-0863 | 三重県四日市市大字塩浜4005番地1 | TEL 059-345-3571 | FAX 059-345-3572 |
| 岐阜営業所 | 〒501-6264 | 岐阜県羽島市小熊町島4丁目61番 | TEL 058-392-6454 | FAX 058-392-6407 |
| 北陸営業所 | 〒920-0356 | 石川県金沢市専光寺町夕47番地1 | TEL 076-266-6474 | FAX 076-267-6480 |
| 新潟営業所 | 〒950-0993 | 新潟県新潟市中央区上所中2丁目1番7号 | TEL 025-283-6474 | FAX 025-283-6497 |
| 四日市技術研究所 | 〒510-0863 | 三重県四日市市大字塩浜4005番地1 | TEL 059-325-6431 | FAX 059-325-6430 |